

無韻

宮坂静生



姥百合のカムイの意志にさからはず  
火を噴くも泉の湧くもおのづから  
かおる・葉子翠巒に溶け軽井沢  
パリ祭の灼けじりじりと葱白む  
桃稔る樹下に銀紙敷き詰めつ  
暑がけぶるまゝ大八ヶ岳の夜も吼え



片陰をゆく蹠音の遠くまで  
打ちまくる祭太鼓の無韻かな  
宵宮の陰からつまり齡充つ  
飛魚<sup>あご</sup>先へ先へといのち押し遣れり  
飛魚<sup>あご</sup>の翅のぼろぼろみみらくは  
福江島恋し  
喝死<sup>えら</sup>せしツタンカーメン王の従者<sup>ずさ</sup>